

表紙のことば

表表紙写真

川崎地質(株) 中田文雄さん撮影

「後方羊蹄山（蝦夷富士）」

今にして思えば、後方羊蹄山の西麓の町が狩太と呼ばれていた時代が、この町を通る函館本線の最も盛んな時であったろうか。蒸気機関車に引かれた数多くの特急や急行が、単線のレールの上を忙しく行き交っていたころの話である。

函館本線は、長万部から2回の山越えを行って余市に抜けるが、尻別川や後方羊蹄山、更にはニセコ連峰などにさえぎられて曲線と起伏が多く、確かに高速走行に適しているとはいえない。

さらに、小樽をのぞいて沿線には大きな町もないので乗客密度も低く、特急や急行など、優等列車は次第に倶知安やニセコの駅から消え始め、10年ほど前には、とうとう函館から札幌へ急ぐ全ての列車は、昔迂回路であったはずの室蘭本線を経由することになってしまった。

しかし、車窓の風景に限ってみれば、海と陸ばかりの単調なものと迂回路よりも、枯れはてたとはいえ函館本線の方が圧倒的に楽しい。

この写真のような秀峰や、スキー場で名高いニセコの山々を間近に見ることができるためである。

熱帯と名目の間などは30分も停車駅がなく、その間、殆ど人の生活の痕跡の少ない山中をディーゼルはゆっくりと走り続ける。

路線際に水芭蕉が咲いている所もあるなど、函館本線のこの区間は、手軽に大自然を味わうことのできる、私にとっては登山電車のようなものなのだ。

北斗星などを利用して北海道入りをする場合、特に急がない限り、倶知安で乗り換え、遠回りをして札幌に入ることにしている。

写真は、倶知安町のニセコ山麓から撮影した後方羊蹄山（蝦夷富士）。

裏表紙写真

(株)ダイヤコンサルタント 中村光作さん撮影

「早春の山里に咲くカタクリの花」

地表踏査での一服時、腰かけた石の傍らに咲くカタクリの花を見つけ、何とも言えないすがすがしさを覚えました。

撮影場所：秋田県田沢湖町玉川温泉

時期：4月中旬

題 字

長谷弘太郎前理事長揮毫